
コナンと哀の漂流記

白波

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

コナンと哀の漂流記

【Nコード】

N0664Y

【作者名】

白波

【あらすじ】

蘭が当てた福引のチケットを使ってとあるツアーに参加していたコナンと哀。しかしツアー参加者の乗った船で起きた事件を調べているときに何者かに海へ落とされてしまう。そして、目が覚めると哀と共に無人島に流れ着いていた。

プロローグ

小五郎と蘭、コナン、哀、平次、和葉は蘭が商店街の福引で当たチケットで豪華客船に乗っていたが同じツアーに参加していた霧待小枝子さんが殺害されるという事件が起き小五郎とコナン、哀、平次はそれぞれ事件について調べ始めた。

105号室

「灰原：霧待さんやほかのツアー参加者について何かわかったか？」
とコナンが聞くと哀は

「そうね…私が調べた限りだと、霧待さんの事はわからないけど…ツアー参加者の船亀陸斗ふねがめりくとについてならインターネットで検索したら出てきたわ…。」

と言った。

「それで…船亀さんってのはどんな人なんだ？」

とコナンが聞くと哀は

「船亀さんはサバイバルチームのゲームのリーダーのようね…あなたの方は何かつかめたの？」

と言った。

「ああ…今回のツアー参加者で小枝子さんが亡くなったとみられる時間にアリバイがないのは船亀陸斗さん、空梨恵理子さんそらなし えりこ、陸川隼人りくがわはさんの三人…だが気になるのは小枝子さんが残した…」

とコナンが言う

「血で書かれた鉛の文字とカタカナのクヤろ…。」

と言いながら平次が入ってきた。コナンが

「ああ…。」

と答えると少し考えてから

「そうか！」

といい部屋を飛び出した。それを

「ちょっと！江戸川君！時計型麻醉銃忘れてるわよ！」
と言いなから哀が追いかける。

「工藤！俺をおいてくな！」

と平次が言ったが二人はすでにどこかへ行っていた。

208号室

コナンは床にある文字を見ると

「やっぱりそういうことか…。」

とつぶやいた。すると

「まったく…相変わらず気に入らないわね…自分だけ真相がわかった時に顔…。」

と言いなから哀がやってきた。

「わーたよ！話すから…一旦甲板に出よう…。」

とコナンが言くと二人は甲板に向かった。

甲板

「それで…誰が犯人なの？」

と哀が聞くとコナンは

「まずは床に書いてあった…」

と説明を始めるが突然後ろから何者かに口をふさがれた。コナンと哀は手から逃れようと抵抗するがその人物は軽々と二人を持ち上げ海に落とした。

プロローグ（後書き）

読んでいただきありがとうございます。

これからよろしくお願いします。

第1話 助かったはいいけど…

「君…君…江戸川君！」

と言う声でコナンは目を覚ますと哀の顔が視界に入った。

「ここは…。」

とコナンが聞くと哀は

「わからないわ…どこかの砂浜だつてことは確かだけど…。」

と答えた。

「なるほど…あの後海流がなんかに流されてこの砂浜に流れ着いて助かったってわけか…。」

とコナンが言うと哀は

「そうね…でもそう喜んではいられないんじゃない？」

と言った。

「どういふ…」

と言いながらコナンが後ろを見るとうつそつとした森が視界に入つた。

「あんまり長い時間海にいたら溺死してただろうから船の航路から察するにここはどこかの島…今の所は人の手が入っている形跡は見当たらないわ…。」

と哀が言うとコナンは

「無人島ってわけか…。」

と言った。すると哀は

「まだそうと決まったわけじゃないわ…島を回れば集落の一つや二つぐらいあるだろうし飯になかったとしてもまったく船が通らないなんてことないと思うわ…。」

と答えた。

「とにかく今日はもう日が傾いてきてるから何とか寝られる場所さがさねーと…。」

とコナンが言ってから歩き出すと哀は

「そうね…。」

と答えコナンの後ろを歩きだした。

南の砂浜 付近

「この洞穴なんかいいんじゃないか…。」

とコナンが言う悲哀は

「そうね…雨風もしのげそうだし…でも、ここで二人寝るの？」

と哀が言った。確かにコナンが見つけた穴は島の真ん中にある山の岩肌に開いた子供二人がやっと入れるような大きさの穴である。

「しかたねーだろ…もう暗いんだから…あんまり歩き回るとあぶねーし…。」

とコナンが言うが哀は

「あのね…あなたも私も外見はともかく中身は高校生よ…。」

とかなんとかぶつぶつ言いながら結局洞穴に入っている。

「素直じゃねー奴…。」

とつぶやくとコナンも洞穴に入った。

次の日…

南の砂浜

「やっぱりこの周辺に人の手が入ってる様子はないわね…。」

と言いながら哀が周りを見るとコナンは

「ああ…昨日は暗くてわからなかったけど…結構広いな…この海岸…。」

と言った。

「そうね…とにかくここで救助を待つか島に住人がいるのにかけるか…どうする？江戸川君…。」

と哀が聞くとコナンは

「そうだな…とりあえず海岸を歩いてみて様子を見ようか…。」
と答えて歩き出した。

1時間後…

「駄目ね…道と言うのもが存在しないのかしら…」

と哀が言うとコナンは

「そうだな…最悪の場合は比較的歩きやすそうなあっちの森を突破するのかなさそうだな…」

と言いながら向こうに見える森を見た。

「森を突破するって…結構大変なんじゃない？何がいるかわからないし…」

と哀が言うとコナンは

「いや…どちらにしろ何か食べ物や水がいるから結局森には入らないといけないからどうせなら集落もないか探せばいいんじゃないか？」

とコナンが聞くと哀は

「そうね…」

と答えて向こうの方へと歩き出した。

第1話 助かったはいいけど…（後書き）

読んでいただきありがとうございます。

これからもよろしくお願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0664y/>

コナンと哀の漂流記

2011年11月4日12時12分発行